

泉ヶ丘駅前地域活性化ビジョン（改訂素案）パブリックコメント等の結果

(1) 意見募集期間：平成 26 年 11 月 21 日（金）～平成 26 年 12 月 20 日（土）

泉北ニュータウン再生検討専門委員と参加者がビジョン改訂素案について意見交換するためのシンポジウムを、平成 26 年 12 月 7 日に開催（参加人数 45 人）したため、その際の参加者からのご意見も含んでいる。

また、南区自治連合協議会代表者や駅前専門店会代表者との意見交換の際にいただいたご意見も含んでいる。

(2) 意見提出人数：30 人

	ニュータウン内	南区内 (ニュータウン 外)	南区外(市内)	市外	不明	合計
人数	22	1	1	0	6	30
比率	72.4%	3.5%	3.5%	0%	20.6%	100%

(3) 意見提出件数：7 項目、59 件

意見分類	主な意見の内容	小計
1. 「ビジョン改訂にあたって」	<ul style="list-style-type: none"> ・本ビジョンは対象範囲や視野が狭いのではないか ・泉北ニュータウン全体の将来像を示す必要があるのではないか ・近隣センター再生や戸建て住宅の空き家対策といった課題についても盛り込むべきではないか ・駅前にいけない高齢者もいるので、泉北ニュータウン全体のことを考えてほしい 	5
2. 「泉ヶ丘駅前地域の現状と課題、今後の可能性」	<ul style="list-style-type: none"> ・南区内での医療と工業の連携など、産官学連携の取組みをもっと前面に打ち出した方がよい 	1
3. 「泉ヶ丘駅前地域活性化の目標と将来像」	<ul style="list-style-type: none"> ・健康維持のためのサイクリングを盛り込むべきではないか ・泉北スタイルの 3 つの例と、めざす将来像の 3 つのテーマのつながりが分かりにくい 	2
4. 「目標の実現に向けた取り組み方針」	<ul style="list-style-type: none"> ・泉ヶ丘プールを存続させ、夏季以外も利用できるようにしてほしい ・他都市との差別化の上でも、本地域の豊かな緑を活かし、緑のネットワークを形成することが大事ではないか ・泉ヶ丘地区に小中一貫校をつくってはどうか ・若年層の人口増をめざし、若年層を惹きつける魅力あるまちにしてほしい ・公的住宅の建替えを促進し、若年層が住みやすい住宅環境をつくるのが大事 ・魅力ある商業施設、ループ的な施設配置、斬新なデザインやアイデアなど、一日楽しく過ごせる、市外からも人がくるような魅力的で活気ある街にしてほしい 	35

	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の設備等を充実させ、子育て世帯や高齢者の交流が生まれるようにするのはどうか ・旧高倉台西小学校跡地を防災拠点として活用してはどうか ・ビッグバンを現代アートの体験型美術館に改装してはどうか ・有名校や進学校が集まれば、都市のブランディングができるのではないか ・沿道の用途地域を変更すれば、店舗や事務所など雇用の場も増えるのではないか ・近畿大学医学部等が立地して、道路渋滞は大丈夫なのか ・公園でバーベキューができると若い世帯は喜ぶ ・駅前保育所や病児・病後児保育を充実させてはどうか ・駐車場がより便利になると、子育て世帯も駅前に来やすい ・広場に子どもを遊ばせながら、座って食事や会話のできるスペースがあると良い ・高齢者のためのコミュニティ・相談スペースがあると良い ・広くて歩きやすい歩道や混雑しない道路を整備してほしい ・若い世代向けのシェアハウスや学生向けハウスが、駅や大学の近くにあると良い ・ウェルネスは重要、健康寿命が延伸することで人とまちが活性化すると考える。 ・観光バスの発着所をつくり、安価で良質なビジネスホテルを作ってはどうか ・駅前にお寺の出張所が入れるゾーンをつくってはどうか ・オンデマンドバスやデッキのバリアフリー化など、高齢者の移動の快適性を高めることができれば良い ・災害時に孤立しないよう、高齢者間がつながることが大事 ・駅ビル、図書館、プール等を集約化し、利便性を高めてほしい ・公的賃貸住宅の建替えは、10年後の人口動態やニーズを考慮し、過度の投資は控えてほしい ・風の道を創出するなら、小型風力発電も導入すべき ・災害時には、電気だけでなく、水・ガス・熱供給の確保も必要である ・燃料電池やバイオマスなど、環境分野において先導的な事業を進めるべき ・地域全体のエネルギーマネジメントは、進出事業者の足枷にならないように構築すべき ・自律分散型エネルギーシステムの導入やエネルギーの多重化、コンパクトなまちづくりなど、災害に強靱なまちを実現すべき 	
5. 「20年後のまちのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> ・旧高倉台西小学校跡地は、地域のふれあいに関連した施設や、産業に活用されることを望むが、防災の視点も加えてほしい ・旧高倉台西小学校跡地には、宿泊施設を入れてほしい ・旧高倉台西小学校跡地は、新産業のインキュベーション施設や、公的な研究施設、オフィスラボ等の導入を優先的にしてほしい 	6
6. 「具体化に向けた推進体制」	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の声を反映させるための仕組みが必要である ・行政、民間、住民が合意を取れる場も必要である ・利害関係者がPDCAサイクルのチェックに入ることが重要だと思う ・行政がまちづくりのイニシアティブをとり、一部の事業者が勝手にしないよう強気で指導してもらいたい 	5
7. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前地域などでハード事業が行われると、狭い道路を大型車両が多く通行する状況がでてくるので、地域住民に配慮してほしい ・専門的な表現が多くて、一般人には分かりにくいので説明を入れてほしい 	5
計		59

ご意見とそれに対する協議会の考え方

本ビジョンの改訂にあたっては、皆様からいただいたご意見をできるだけ反映するよう努めたところです。本ビジョンの主旨等から、直接反映できなかったご意見もございますが、皆様からいただいたご意見のすべてにつきまして、泉ヶ丘駅前地域の活性化や泉北ニュータウン全体の再生に向けた取り組みを進める上での今後の参考とさせていただきます。

本ビジョンは、泉ヶ丘駅前地域に関わる人々が地域の活性化に向けて共に行動するための指針であり、このように、多くの方からたくさんの貴重なご意見をいただいたことは、今後、取り組みを進めていく上で大変心強いものと考えています。

皆様一人ひとりがそれぞれの立場で主役となり、まちづくりに関わっていただきますよう、引き続きご協力をよろしくお願い致します。

1. 「ビジョン改訂にあたって」について

ご意見	協議会の考え方
<p>まず、ビジョン改訂は望ましいと思います。しかし、昨今の状況から考えるに、今回のビジョン改訂は視野が狭すぎるように思いました。本来は、梅・美木多駅地域も含めた幅広いビジョン改訂が必要だったように思います。その理由として、近大病院の泉ヶ丘への移転に伴う近大堺病院の閉院後の跡地、すでに閉鎖された南クリーンセンターのそれぞれの跡地をどう利用するか、泉ヶ丘プールが閉鎖された後に代替となる施設はどこに建設されるのか、老人福祉センターの老朽化など両地域にまたがる課題も少なくありません。そういう観点からの総合的なビジョン改訂をぜひとも行っていただきたい旨を要望します。</p>	<p>本ビジョンの目的と役割について、泉ヶ丘駅前地域は泉北ニュータウン全体の再生の起爆剤となる中核的タウンセンターであり、「本地域の将来像を地域内外に広く情報発信することにより、この地域に住みたい、訪れたい、活動したい、事業をしたいと思う人々を増やすことで、本地域のみならず、泉北ニュータウンひいては南大阪地域の活性化を図る」(P1)と記載しました。</p> <p>今回の改訂は、新たな土地利用転換等の動きを見据えて当該地区センターを中心とした徒歩圏域(約800m圏)に対象エリアを拡大し、泉北ニュータウン全体や周辺地域との連携を考慮しつつ、さらなる活性化の推進を図るために、改訂するものです。</p>
<p>泉ヶ丘駅前地域の20年後の話をする前に、泉北ニュータウン全体の20年後を示すべきではないか。</p>	<p>今回の改訂は、新たな土地利用転換等の動きを見据えて当該地区センターを中心とした徒歩圏域(約800m圏)に対象エリアを拡大し、泉北ニュータウン全体や周辺地域との連携を考慮しつつ、さらなる活性化の推進を図るために、改訂するものです。</p>
<p>対象区域については、800m圏域より範囲を広げること、ビジョンの可能性も広げることができるのではないかと。市としても、泉ヶ丘駅前地域だけでなく、泉北ニュータウン全体を考えたランドデザインをつくり変える必要があるのではないかと。</p>	<p>本ビジョンの対象範囲のさらなる拡大等については、今後ビジョンを改訂する際に検討していきます。</p> <p>なお、泉北ニュータウン全体については、平成22年5月に策定した「泉北ニュータウン再生指針」において、20年後のまちの姿を想定し、今後10年間で取り組むべき方針が示されていますので、これを踏まえ、引き続き泉北ニュータウン全体の再生に向けた取り組みを行っていくこととしております。</p>
<p>本ビジョンでは、近隣センターの再生や戸建て住宅の空き家対策について触れられていないが、そうした課題についても盛り込むべきではないか。</p>	<p>近隣センターの再生については、泉北ニュータウン全体の課題と認識しておりますが、本ビジョンは泉ヶ丘駅前地域を対象範囲としているため、泉ヶ丘駅前地域活性化の目標として「他の地区センターや近隣センターと連携した人々の生活や活動を支える仕組みや仕掛けを用意する」(P11)と記載しましたが、近隣センター再生の施策等については、本ビジョンでは触れておりません。</p> <p>戸建て住宅の空き家対策については、本地域の活性化の効果や取り組みを地域外へと波及させるための環境・基盤づくりとして、「駅前地域と周辺部の戸建て住宅との住み替え促進やサービス連携等による安心して住み続けられるニュータウンの実現」(P30)を推進すると記載しました。</p>
<p>駅前に行けない高齢者もいる。駅前地域だけでなく、泉北NT全体のことを考えてほしい。</p>	<p>駅前に行けない高齢者を考慮し、「駅前様々なサービスが自宅や近くの近隣センターでも受けられるなど、周辺部に居住する高齢者や子育て世帯なども本地域の活性化の効果を享受することが期待される」(P30)と記載しました。</p>

2. 「泉ヶ丘駅前地域の現状と課題、今後の可能性」について

ご意見	協議会の考え方
<p>P.10の泉ヶ丘駅前地域の活性化に向けたポイント2) について</p> <p>今回のビジョン改訂素案では、「南大阪地域を代表する商業・文化・医療施設の連携による地域のブランド力の向上と泉北ニュータウンの魅力発信」と銘打たれているが、もう少し視点を追加してほしい。南区内でも技術力のある製造業の企業が少なからずあります。もっと、産官学連携の取り組みを前面に打ち出した方がよいと思います。医療と工業の連携も地域活性化には重要な要素のはず。今回のビジョンでその点が抜けられているのは極めて残念でなりません。</p>	<p>ご指摘について、「本地域及び周辺部には、地域連携意識の高い地元住民や事業者、NPO、大学等が存在しており、様々な活動を実施している」(P10)と記載しました。</p> <p>また、めざす将来像において実現するライフスタイルとして、「医療・福祉、商業、住宅、教育、研究など多分野での企業連携や産学官の連携、NPOや地域コミュニティと企業との連携などが活発に行われ、情報交流、人材集積などの環境が充実することにより、新たなビジネスや産業が生まれやすくなる。」(P18)と記載しました。</p>

3. 「泉ヶ丘駅前地域活性化の目標と将来像」について

ご意見	協議会の考え方
<p>P.17の楽しみながら身体を動かし、健康に暮らせることについて</p> <p>最初のポイントではジョギングやトレイルランニングが述べられているが、また、堺市では自転車道の整備も積極的に行っていることも鑑みれば、サイクリングも身体を動かし、健康維持の一助となることは間違いないので、述べた方がいいと思われる。また、ジョギングなどの道路面に関しては、片蔵から若松台へ抜ける歩道を整備してほしい。現状であれば、泉北高校の西側や若松台中学校の南西側に回り込まなければならない。青少年の家あたりから若松台へ最短で抜けられる歩道整備をぜひともお願いしたい。</p>	<p>本ビジョンでは、現在整備されている駅前及び周辺の「歩道」や「緑道」で歩くことや走ることを想定し、健康増進が図れる手段として、ジョギングやトレイルランニングを例に挙げています。</p> <p>健康維持のために行うサイクリングを含み自転車による通行は、自転車道など通行可能な場所で行われるものと考えますので、ここでは記載しておりません。</p> <p>なお、本ビジョンでは、「周辺の緑道にも本地域の価値創造や魅力向上の動きを波及させるため、緑道沿道も活用しながら、安全性と快適性を備えた緑道となるようアクセスしやすさを強化することや、健康遊具をはじめとした健康を増進する設備等を設置することも考えられる。」(P27)、「公共交通や自転車の重要性はますます高くなることが予想されるため、公共交通（鉄道・バス）の利便性向上、駐輪場の再配置や自転車通行環境の整備、パーソナルモビリティの利用促進なども含め、中核的タウンセンターとしての本地域へのアクセスしやすさの向上を検討する。」(P28)と記載しました。</p>
<p>P11活性化の目標に泉北スタイル①～③が書かれているが、P12将来像の3つのテーマが、スタイル①～③とリンクしていないので、各ページのつながりが分かりにくい。</p>	<p>ご指摘の部分について、泉北スタイルは泉北ニュータウン全体のライフスタイルとして「泉北ニュータウン再生指針」で示したものであり、ここでは、泉ヶ丘駅前地域が担うべき泉北ニュータウンの魅力発信等を行う役割を補足するため、参考掲載したものです。</p> <p>本ページ中当該ページの次ページ以降の泉ヶ丘駅前地域がめざす将来像の3つのテーマの設定に、直接すべて対応している訳ではありません。</p>

4. 「目標の実現に向けた取り組み方針」について

ご意見	協議会の考え方
<p>近大医学部が来て、泉ヶ丘プールが追い出されるとしたら、大反対です。</p> <p>近辺に建て直すとしたら、夏季以外も活用できるよう、例えばスケート場とか、子どもの遊び広場とか、総合的な子育て支援施設となるよう、希望します。</p> <p>私の子や孫も、プールに泳ぎに行き、とても喜んでいました。廃止や遠方への移転のないよう願っています。</p>	<p>泉ヶ丘プールについては、泉北ニュータウンの活性化にも資するよう、再整備について検討していきます。</p>
<p>どのような個性ある街が作れるのか。他都市との差別化ポイントが必要。</p> <p>歴史浅いが緑のストックがあるインフラ環境も整う。緑のネットワーク形成がポイントの1つであるので、駅近で貴重な田園公園・プール用地を近大病院への転用は最小限にして欲しい。府営住宅の高層化で、府営住宅の用地を有効活用できないか。</p> <p>教育面では、東大谷、近大医学部の開校は賛成だが、泉ヶ丘地区に公立の小中一貫校は造れないのか。教育面で人気になることは、街の付加価値を上げることができる。所得が高い層、子育て世代の転入を促進して欲しい。</p> <p>住居面：一戸建エリアの空家対策を急いで欲しい。リノベーションの促進、更地への補助。無印良品と都市公団の取組での強化して、若年層の人口増を目指して欲しい。若者を引きつける魅力のある街にして欲しい。</p>	<p>本地域は豊かな緑が象徴的な地域であると認識しており、「多彩な緑のグラデーションの創出」(P25)や「緑のネットワークの形成」(P26)を推進すると記載しました。</p> <p>教育面について、「幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校・大学などの校種間連携により、幼児教育から義務教育への円滑な接続、小中一貫した教科指導や学習規律に基づく教育、国際的な交流や留学プログラムなど、充実した教育を受けることができる」(P13)と記載しました。</p> <p>戸建て住宅の空き家対策については、本地域の活性化の効果や取り組みを地域外へと波及させるための環境・基盤づくりとして、「駅前地域と周辺部の戸建て住宅との住み替え促進やサービス連携等による安心して住み続けられるニュータウンの実現」(P30)を推進すると記載しました。</p>
<p>総体的には纏まったビジョンに見えます。ただ、現時点での泉北地区の住民、特に高齢者などへの告知が少ないように思えます。近未来を見据え更なる高齢者対策、子ども、若年層の取り込みが大事ではないでしょうか。一般の人がこのビジョンを見ても抽象的でありピンとこないと思われそうですが、私的意見として以下の項目を述べさせていただきます。</p> <p>○若年層の取り込み、少子化の減を図る</p> <p>これにはまず、府営住宅やURなどの建て替えを促進し、若年層が住みやすい住宅環境を創ることが大事と考えます。現在、非常な高齢者世帯の住居となり外部からの転居はあまり好まれていないのではないかと。住居の間取りにしても住みづらい昔ながらの間取りそのまま、これでは若い人はいくら周辺環境が良くても転居してこないと思います。泉ヶ丘周辺は現居住の我々にはすごく良い住環境です。これからも居住したいと思えます。新しく子育て世代、若年層を取り込むことで、少子化も解消できると考えます。公的な住宅だけでなく民間事業者も含め、外部からのノウハウの取り込みが必要です。</p>	<p>公的賃貸住宅を活用した若年層の取り込みについて、「多様なライフスタイルに応じた公的賃貸住宅の再生」(P29)を推進するとし、「子どもコアなどの機能を享受しながら子育てができる住宅や、(中略)、学生や地域で働く職員向け住宅、自分らしい暮らしを実現できるリノベーションやDIYのできる住宅、菜園つき住宅など、ライフスタイルに応じた多様な住宅の供給が望まれる。(中略)、楽しく歩き、憩える住環境づくりや世代・職業にかかわらず地域の交流が自然に促進されることが期待される」(P29)と記載しました。</p>

<p>○駅周辺施設の対策について</p> <p>店舗の数の割に歩行者が非常に少なく、特に夜間21時頃になるとどの店舗もお客が少ない。これは店舗の閉店時間が早いと考えます。高島屋が閉店すればパンジョの店舗もガラガラになり仕事帰りに立ち寄りたと思う店舗がなく、おまけに駅前周辺が過疎地の駅にいるような薄暗い感じがしています。朝にしてもタクシー乗り場から駅通路付近は電気が消え暗いです。有名ブランド店舗やハイセンスな店舗もなくこれでは若い人たちはこの街に参集してこないです。これも高齢者が多いことが原因のひとつだと思います。近大附属病院の移転も発表され人の移動、動きも変化が起き様々な人々が行き来されるのが予想され、これらの人々を取り込み「泉ヶ丘に行けば一日楽しく過ごせる」という様なループ的施設の設置、魅力ある明るく元気のある活性化された街にしていきたい。</p>	<p>本地域の中心部について、「まちの顔となるシンボルコアの構築」、「3つの将来像を象徴するシンボルとなる機能の集積と発信」、「駅前施設のリニューアル・活性化により、南大阪地域全体から集客し、本地域のブランドを発信する商業核としての商業・サービス・文化・交流機能の充実、利便性の向上を図ることが必要である」(P20)と記載しました。</p>
<p>駅前の開発、構想を考え、作り、皆で意識を持って参加しよう。</p> <p>ニュータウンの玄関口と情報発信基地として、商業施設は勿論お年寄りから新婚さんが、子供達が、街に住みたくなる様な(住居の整備)ダイナミックなデザイン、斬新さ、今まで見た事もないアイデアを入れ、ニュータウン生まれのふる里を自慢できるような、市外、県外からもくる様に活気ある街にする。</p> <p>事例</p> <ul style="list-style-type: none"> 博多駅ステーションのリニューアル時、私達はタイル画に応募。床や柱、天井、屋上の壁に沢山…愛着があり、未来をも思う。又、博多キャナルシティのように…水と緑とステージで感動(地元愛)噴水と緑、地元の音楽のある暮らし、ワクワク・ドキドキのステージ。感動のベースを楽しんだ後は、食事、買い物を楽しみ又、何度もきたくくなるような空間が是非作るべきだと思います。 	
<p>高島屋や商店街に魅力あるものを作ってもらわないと、駅から降りた後、買い物せずにバスに乗って終りになる。</p>	
<p>シンボルコアは、歩道橋のところどころにどんなシンボルを作るのか? どうせお金をかけるなら、歩道橋は撤去し、地下道化して、駅前を広い空間にしたらいいと思う。</p>	<p>本地域の歩行者動線について、「歩行者動線上には、行き交う人々が交流し、イベント等も開催できる広場を設け、泉ヶ丘の顔にふさわしい象徴的な空間を形成することが求められる」(P21)と記載しました。</p>
<p>○公的施設の有効利用について</p> <p>泉ヶ丘周辺にはたくさんのそのような施設がありますが、施設についてもうひとつセンスがなく1回利用すればもう行かないような施設が多い気がします。公園にしてももうすこし設備の整備、充実をさせれば子育ての方、高齢者の方も集うことができると思います。例えばもう少しベンチを増設するとか、カフェテリアを設置するとか。そのことが世代間を超えての交流が始まる一歩だと思います。</p> <p>また、そのような施設を多目的に利用できるようにすることが大事でひとつの利用方法にこだわらない使用方法を考えていただければと思います。</p>	<p>本地域の公園等について、「ビッグバン・濁池周辺の「子どもコア」を中核に、駅前の「シンボルコア」から大蓮公園の「パークライフコア」までの一帯に、子どもが創造的に学び、遊ぶための拠点を形成し、樹林地や池、公園、広場、施設等が一体となった多様なアクティビティを通じて、子どもが様々な体験をし、多様な世代や立場の人たちと出会い、交流できる仕組みを構築する」(P22)と記載しました。</p>

○公的資産の活用について

堺市泉北地区には大きな防災拠点がなく、大きな災害が発生した時どのような対応がとられるのか憂慮しています。北港の埋め立て地には防災基地がありますが、もし今話題の東南海道地震が起きた場合、堺市内及び沿岸部は津波により浸水状態になると想定されており、防災拠点としての役目を果たすことができるのでしょうか。それを考えたとき泉北地区に防災拠点を設置しておけば素早く適切に対応ができるはずです。道路状況も悪くなく何処のエリアにでも行ける道路網ができています。また、泉北地区以外の避難者も避難してくることも想定され、現在、指定避難所に指定されている小、中学校、地域会館など合わせても地域の避難者ですら全員の収容は不可能です。高倉台小学校跡地は建物も耐震性があり現建物を利用し備蓄倉庫を兼ねた避難所として、また広域の防災拠点として利用すれば良いと考えます。同時に現建物を現状のまま他の教育施設などに賃貸借し、緊急時には指定避難所として利用できるよう交渉も必要ではないでしょうか。

いろいろな場所、部分で地域との共生を図れるビジョンを作成されることを切にお願いいたします。

本地域の防災については、「災害時の避難安全性を高める施設やオープンスペースの充実を図るとともに、マネジメント体制を構築し、地域全体の防災性や防犯性の強化を図る」(P31)と記載しました。

旧高倉台西小学校の跡地については、「ネクストコア1」として「教育、交流、防災機能等の将来ニーズに対応する拠点を想定」(P34)と記載しました。

なお、堺市域に係る災害に関しては、「堺市地域防災計画」を策定しており、これを踏まえ、堺市及び防災関係機関が、市民や事業者等の協力のもと、災害予防、災害応急対策及び災害復旧・復興等の災害対策を実施することとしています。また、大規模災害発生時には、「堺市防災情報システム」により、避難所の開設情報、避難勧告・避難指示等の情報、給水場所等の支援情報、安否情報、帰宅支援情報等の情報を確認することができます。

ビッグバンについて

ビッグバンにつきましては、何度か提案いたしましたがこの度のコメント募集が一番良い機会と思われました。

ビッグバンが開館して私たち家族も何度か利用いたしました。ところが暫らくして気づくことは、いつも同じ常設展なのです。ある一定の時期の子供たちが利用するだけで、展示替えが大きすぎてできず使用に限度をきたし、大赤字の対象物で処分の対照にも上がりました。舞台など一部の施設とその利用者のみが使用していますが、大部分は開館当初のままです。

堺は「堺は海から港から」と言われますように、昔から文化や産業なども外国からやって来た物も多く、「初物みな堺」と言われてきました。では、今はその港は何にあたるのでしょうか。私たち国際 ART BRIDGE は、国際交流という経験を重ねることで申し上げますと、文化の港は美術館にあると思われまます。今や美術館は産業やデザインなどの発展のプラットフォームでもあり、また子供から老人に至るまでの生涯学習の場でもあるのです。

このビッグバンは府立であります。堺市にある以上まづは堺市と共同事業となるか、移管されるべきものです。一から建設するよりもビッグバンを大改装して先ほどの子供から老人までたくさんの方が楽しめる、「現代アートの体験型の美術館」にされますことを提案いたします。そしてギャラリー部門も備えながら、「アルフォンス ミュシャ」の世界規模の大コレクションの展示、保存、研究、情宣を担う「ミュシャ美術館」を世界中の人々が待ち望んでいると思われまます。またこれらの運営には大阪芸術大学などの専門機関や地域の大学などと連携してこれにあたり、産、官、学の連携が町に「誇り」と「潤い」をもたらします。デザイン部門の利用や研究は産業にも発展を促していくでしょう。デモンストレーション、ファッションやデザインコンペにも繋がると思われまます。中心ができますとそれを追従するようにイベントやショーがいたる所で自然発生してきます。このことが文化、教養と産業を刺激していくのです。美術館やホールに行くときは食事や会話も楽しみです。そのために心も身体もコーディネートしますよね。潤いのあるふくよかな日常は自身の文化教養から生まれるのです。

このように泉ヶ丘周辺は文化、医療、教育の観点と住宅街の隣接による「文京区」になるべき拠点地域であることは地域住民が懇願する思いなのです。

ビッグバンについては、「ビッグバン・濁池周辺の「子どもコア」を中核に、駅前の「シンボルコア」から大蓮公園の「パークライフコア」までの一帯に、子どもが創造的に学び、遊ぶための拠点を形成（中略）」、「ビッグバンやビッグ・アイ等と一体的に、豊かな緑や濁池の水景を活かした賑わい・レクリエーション機能の強化が必要である」（P22）と記載しました。

ビッグバンは児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的として、児童福祉法に基づき設置された大型児童館であり、これら機能に併せて、都道府県内の小型児童館の指導及び連絡調整機能等の中核的な役割も果たしています。また、指定管理者制度を導入し、より効率的・効果的な運営を図っているところであり、全館事業として、2か月ごとに館全体のテーマを設けて事業を展開するなど、施設の魅力づくりに努めています。

旧高倉台西小学校跡地利用について

南区、ニュータウン地域は文化、教育の町づくりが最も希望される「文京区地域」です。

特に泉ヶ丘周辺は周知のとおりで、近畿大学付属病院の移転と駅前整備なども予定されています。大学、高校、中学校などの私学校も増えましたが、もっと多くの東京ブランドの有名校や進学校が集まれば若い世代の流入も期待できます。旧塚区域とは別の形の「あこがれ」の町づくりが可能です。

私はキュレーターとしての仕事の中には都市などのブランディングの必要性も考えます。以前に高倉台西小学校跡に「慶応大学付属小学校」が打診と聞いたことがありました。それきりになりましたが、町全体が震撼するくらいのパンチあるお話でした。文京区にはその地域をリードする教育機関（あこがれの）が必要です。国立の小・中一貫校があるとかの地域の自慢が必要です。この市民の自慢、「誇り」こそが本来、400年前に塚にあった「スタンダードモラル」なのです。産業、文化の発展は「茶の湯」のフィルターによって教養やモラルの発展に進化しましたね。この「誇り」を取り戻すためには幼少期からの情操的驚き、興味、研究、畏怖やあそびなどの体験や経験が必要なのです。この意味でビッグバンやビッグアイの体験型美術館や音楽ホールとつながるものがあります。

今一つ大切なことがあります。高学歴だけを身につけますと必ず故郷から出ていきます。それはそれで当然のことです。しある時期仕方がないことでもあり、頼もしくもあります。ただ、その後いつかは帰って泉北ニュータウンで住みたいと願う町でありたいということです。そのような町にはよそからも必ず同じ思いの方々が来られます。便利な町づくりはハード面です。少々不便でも人間として、美しく住みたい町、自慢の町にするには幼少期からの教育が不可欠なのです。昔から「無駄の美学」と云いまして美しきものは人も物も扱いがデリケートもしくは邪魔くさいものです。精神的に貧しきものは現状的に便利なものが好きなのですが、すぐに飽きて不必要になりますでしょう。私たち日本人は海外から見ても興味ある民族なのです。パワースポットでもあり400年前の精神的発展から封建制度の確立など他のアジアの国には無い経験を近代歴史としてもっています。しかし、その美しさを忘れつつあることも事実です。先にも申しましたが、国際交流を続けてきた経験から私たち日本人は稀有な国民のようです。精神的美意識や高度な文化度は国土のみならず、羨望するに余りある存在なのです。そういう意味で「塚」を見直し住んで楽しい町にしなくてはなりません。泉北ニュータウンはその文化基盤である必要があります。

旧高倉台西小学校跡地については、「ネクストコア1」として、「駅前と住宅地をつなぐ立地を活かし、教育、交流、防災機能等の将来ニーズに対応する拠点を想定」（P34）と記載しました。

また、本ビジョンで実現するライフスタイルに、「子どもが自然豊かな環境の中で、のびのびと育つ創造的な教育環境を有するまち」として「幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校・大学などの校種間連携により、幼児教育から義務教育への円滑な接続、小中一貫した教科指導や学習規律に基づく教育、国際的な交流や留学プログラムなど、充実した教育を受けることができる」（P13）と記載しました。

<p>沿道の活性化については、用途変更をするということか。例えば、第1種中高層住居専用地域を第2種中高層住居専用地域へ変更すれば、店舗や事務所が入ることができ雇用の場も増え、多目的に展開することができるのではないか。</p>	<p>沿道の活性化については、「ネクストコアや三原台榎塚台線・宮山台茶山台線の沿道は、駅に近く、幹線道路からのアクセスのよい恵まれた立地を活かし、子育て・子育て等と関連した地区内外の民間事業者や市民、活動団体などが新たなビジネスや創造活動に取り組むことが考えられる」(P24)と記載しました。</p> <p>現状の用途地域でも一定規模・用途の店舗や事務所の建築は可能であり、今後、近隣センター等との機能分担も考慮しながら、地域の利便性・生活サービス向上に資する沿道の活性化、ひいては、地域の活性化につながるよう検討していきます。</p>
<p>高島屋付近の道路渋滞は知っているか？特にバーゲンの時はひどい。近畿大学付属病院が来て大丈夫なのか？</p> <p>幹線道路の交通量については、泉北・北線が大きな要因になっている。また、泉北・南線は開発当初と現在では変化している。</p>	<p>本地域の道路渋滞の問題は認識しており、「施設の増加や再整備に伴う交通渋滞による利便性・安全性の低下を防ぎ、本地域へのアクセスしやすさを強化し、まちの活性化を推進するために、交通需要が見込まれる施設や駐車場などの配置の見直し、広域幹線との接続部の強化など、円滑な道路機能の確保に向け、総合的に検討を行うことが必要である」(P27)と記載しました。</p> <p>上記を踏まえ、近畿大学など事業者の施設配置計画が適切なものとなるよう協議していくとともに、交通管理者など関係機関とも協議していきます。</p>
<p>公園でバーベキューできるようにすれば、若い世帯は喜ぶ</p>	<p>公園の活用については、「公園や池に面したカフェなどに子育て相談や親同士の交流ができる機能を併設するなど、子どもを遊ばせている間に親も楽しめる施設を充実させることが望まれる。」(P22)と記載しました。</p>
<p>子育て世帯にとって保育所が大切。泉ヶ丘駅前地域近辺には保育所が足りていないため、子育て世帯は住みにくい。また、保育所の料金が安い。生活するために、保育所へ預けて働きに行くのに、保育所に預けるために働きにくいことになっている。</p>	<p>子育てに関して実現するライフスタイルについて、「待機なく入所できる保育所、延長保育や一時保育、子育てアドバイス、子育て世帯同士の交流、地域の子育て経験者や保育系学生などによる子どもの見守りや家事代行など、様々な需要に応じた多種多様なサービスが充実しており、共働き世帯でも安心して子育てを行える。」(P14)と記載しました。</p>
<p>子どもコアについて、子どもの遊び場を作るだけでは子育て世帯は居住しない。病児・病後児保育を充実させないといけない。南区に一箇所では足りない。</p>	

<p>泉北ニュータウン及び、泉が丘周辺の活性化を心から祈っております。私自身、子育て中ですので、子育てしている一人としてご意見させていただきます。</p> <p>まず、私は城山台（光明池周辺）に住んでいますが、泉が丘への交通が不便です。駐車場が高料金。泉が丘のサンサン広場への参加には、車は遠慮するよう言われています。ちょっとバンのファンですが、駐車場からちょっとバン現地へが若干遠いです。勿論、泉が丘駅からちょっとバンへ、遠いです。各施設に駐車場の設置をお願いします。またバスなど、公共交通機関も各施設直通できるバスやバス停などを希望します。</p>	<p>本地域へのアクセスについて、「施設の増加や再整備に伴う交通渋滞による利便性・安全性の低下を防ぎ、本地域へのアクセスしやすさを強化し、まちの活性化を推進するために、交通需要が見込まれる施設や駐車場などの配置の見直し、広域幹線との接続部の強化など、円滑な道路機能の確保に向け、総合的に検討を行うことが必要である」（P27）、「また、今後の高齢化のさらなる進行、環境への配慮等を見ずえると、公共交通や自転車の重要性はますます高くなることが予想されるため、公共交通（鉄道・バス）の利便性向上、駐輪場の再配置や自転車通行環境の整備、パーソナルモビリティの利用促進なども含め、中核的タウンセンターとしての本地域へのアクセスしやすさの向上を検討する」（P28）と記載しました。</p>
<p>泉が丘専門店会、広場良いですが、専門店で購入し食べられるスペースがあれば、良いと思います。お母さんも、子供を遊ばせながら、座って話せる、食事もあるスペースがあると助かります。通いたくなります。</p> <p>泉が丘プールが無くなることに、残念がる声を多く聞きます。泉が丘プールが無くなると、ますます子育て世代の足が遠のくと思います。貴重な市民プールと考えます。</p> <p>箱物は要りません。子供に必要なものは自然や人との触れ合いです。泉北には沢山の美味しい野菜がありますし、自然もあります。野菜の直売所（低農薬など子供に食べさせたいもの）や、公園が嬉しいです。公園といっても、作られたものより、泉北の山など自然を生かしたものが良いと思います。（堺自然ふれあいの森のようなもの）</p>	<p>子どもを遊ばせるスペースについては、「公園や池に面したカフェなどに子育て相談や親同士の交流ができる機能を併設するなど、子どもを遊ばせている間に親も楽しめる施設を充実させることが望まれる。」（P22）と記載しました。同じく、「ビッグバン・濁池周辺の「子どもコア」を中核に、駅前の「シンボルコア」から大蓮公園の「パークライフコア」までの一帯に、子どもが創造的に学び、遊ぶための拠点を形成し、樹林地や池、公園、施設等が一体となった多様なアクティビティを通じて、子どもが様々な体験をし、多様な世代や立場の人たちと出会い、交流できる仕組みを構築する」（P22）と記載しました。</p> <p>また、野菜の直売所なども想定し、「趣味を活かした展示や販売などができるチャレンジショップや起業等に関連する講座が充実し、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスなどの新たな担い手になれる。」、「周辺地域の農業と食品製造・販売業、飲食業などとの連携による、地元農産物の直売市の開催や、地元農産物を活用した新たな商品の開発・販売など、このまちの資源を活かした新たな価値が創出される場や仕組みがある」（P18）と記載しました。</p>

<p>子育て世代の意見を申し上げました。子育て世代に目を向けることは良いことですが、私は高齢者などに焦点をあてるべきかと思います。世の中は、人口減少です。少子化です。しかしこれらは、結婚出来ない単身世帯が多いことが原因だと思います。高齢化についてですが、泉北は生活保護受給者も多いので、そういった方も利用できる施設があればと思います。健老大学、とても良いですが、そこにさえ行けない人たちのための、コミュニティスペース、相談スペースがあればと思います。大学との連携を取りながらの取り組みが良いのかと思います。</p>	<p>高齢者等のコミュニティについて、「芸術・文化等の多様なアクティビティを誰もが始められる場や仕組みがある」、「アクティブシニアや学生等がまちの活性化につながる活動を行う場所として、パブリックスペースがより身近に使いやすくなる」、「地域コミュニティ自らが企画・運営するイベントや多彩なアクティビティが充実することで、地域内外の人々がつながり、地域への愛着をもち、誰もが自慢のまちに思うことができる」(P17)と記載しました。</p> <p>また、サービス連携等による安心してすみ続けられるニュータウンの実現に向け、「駅前のようなサービスが自宅や近くの近隣センターでも受けられるなど、周辺部に居住する高齢者や子育て世帯等も本地域の活性化の効果を受けることが期待される。」(P30)と記載しました。</p>
<p>子育て世代の為にも、高齢者の為にも、道は広く歩きやすいものを望みます。道路も、混雑せぬよう、又安全を考慮し、最低片側2車線の道路が良いと思います。</p>	<p>本地域の歩行者動線については、「本地域の価値を最大化するため、新たな核施設(大学・病院、公園等)と駅や駅前の施設をつなぐ歩行者ネットワークを形成する」(P27)と記載しました。</p> <p>総合的な交通体系の見直しについては、「施設の増加や再整備に伴う交通渋滞による利便性・安全性の低下を防ぎ、本地域へのアクセスしやすさを強化し、まちの活性化を推進するために、交通需要が見込まれる施設や駐車場などの配置の見直し、広域幹線との接続部の強化など、円滑な道路機能の確保に向け、総合的に検討を行うことが必要である。」、「また、今後の高齢化のさらなる進行、環境への配慮等を見ずえると、公共交通や自転車の重要性はますます高くなることが予想されるため、公共交通(鉄道・バス)の利便性向上、駐輪場の再配置や自転車通行環境の整備、パーソナルモビリティの利用促進なども含め、中核的タウンセンターとしての本地域へのアクセスしやすさの向上を検討する。」(P27)と記載しました。</p>
<p>単身世帯は、低収入が多く、生活が厳しい状況と聞きます。そういった人たちの為にも、又若者、学生の為にも、若い世代の人を中心としたシェアハウス、学生ハウス(低家賃)、かつリノベーション等とおしゃれで自由に住みたくなるもの、人との交流が出来るものが大学近くや、駅近くの地域にあればと思います。</p>	<p>単身の若者や学生向けの住宅の供給について、「子どもコアなどの機能を享受しながら子育てができる住宅や、(中略)、趣味や仕事が生かせるSOHOやアトリエ付き住宅、学生や地域で働く職員向けの住宅、自分らしい暮らしを実現できるリノベーションやDIYのできる住宅、菜園つき住宅など、ライフスタイルに応じた多様な住宅の供給が望まれる」(P29)と記載しました。</p>

<p>新しいもの、大型ショッピングモールなどは泉北らしさには繋がらないと思います。現状の高島屋、パンジョを生かしていけば良いと考えます。既存の商店街のお店や、泉北の農業や自然など、そういったものを生かすことで新しいものが生まれるのではないかと思います。</p>	<p>本地域の商業施設について、「駅前施設のリニューアル・活性化により、南大阪地域全体から集客し、本地域のブランドを発信する商業核としての商業・サービス・文化・交流機能の充実、利便性の向上を図ることが必要である」(P20)と記載しました。</p>
<p>【P23 『健幸』を実現する場や機会の創出と仕組みの構築】について】</p> <p>2014年6月に閣議決定された都市再生特別措置法の改正においては、人口の減少・高齢化に伴い、健康で快適な生活や持続可能な都市経営の確保が都市における重要な課題とされ、都市のコンパクト化とともに「ウェルネス」も重要なキーワードだと位置づけられています。日本ウェルネス協会では、ひとづくり、まちづくり、ものづくり、ネットワークづくり、ふれあいづくりを目指して地域連携事業を総合的に行われていますので、ウェルネスとまちづくりは密接な関係にあります。</p> <p>健康寿命が延伸することで、人およびまちが活性化し、活性化されたまちの魅力はさらに高まっていくものと考えています。具体的には、ビッグバン周辺の里山などを活用したウォーキング・ランニングコースの整備や、泉北ニュータウン全体でのウォーキングイベントの開催など人々が「思わず歩きたくなるまち」となることが必要だと考えます。泉北地域内の自然・緑地を走る「泉北ラン」なる企画が開催されても盛り上がると思われま。</p> <p>また、このたび移転となる泉が丘プールについては、移設の際には室内化・温水化し、オールシーズン対応にすることで、地域の健康力向上に貢献できると考えられます。</p> <p>こうした取り組みが泉北地域における住み、働き、訪れる人々に浸透し、「健康力が増進していくまち」が実現すれば泉が丘駅前地域および泉北地域が更に活性化されると考えています。</p>	<p>本地域における『健幸』の実現について、「安全で快適な歩道や緑道、公園、水辺などでの散策やジョギング、起伏ある地形を活かしたトレイルランニング、魅力ある施設や自然豊かな公園内のアクティビティを楽しむことなどで、自然と運動不足が解消され、健康になれる」(P16)と記載しています。</p> <p>なお、泉ヶ丘プールについては、泉北ニュータウンの活性化にも資するよう、再整備について検討していきます。</p>

<p>泉ヶ丘周辺の土地利用転換について、ライブタウンセンターとやらの実現を心待ちにしている82才の婆さんです。「新たなビジネスチャンスや場や機会の創出としくみの構築」ということで、ど素人の私、ちょっと考えてみました。</p> <p>案1. 観光バス発着場をつくる 場所はコノミヤへの売却用地、駅の西側or北側というのでしょうか？タクシーのりば、タクシー、バス待機場所、一般駐車場、あの一体を観光バス発（着）場にする。光明、梅、和泉中央、深井等、現泉北高速ラインの人々は電車を利用して、泉ヶ丘へ来る。大阪の西梅田、なんばパークスetc これにともない公団の空き部屋をビジネスホテルにかえていく。又空き部屋の一部はモーテル、コンドミニウム（厨房設備をととのえる）に改良する。モーテル形式の方は近大病院に通院、看病にあたる人等、病院と連携して利用者を募る。</p> <p>案2. 駅前、駅中保育所をつくる 子供を駅で預け、電車で大阪方面、堺方面へ通い、泉ヶ丘で買い物をして帰る。</p> <p>案3. 泉ヶ丘地区にお寺をつくる 当地区にはお寺がないので、お寺の出張所のようなものが入れる建家、ゾーン？をつくる。</p> <p>案4. 安価な質のよいビジネスホテルを 地方都市の駅前には安価できれいなビジネスホテルがたくさんあります。安価なので外人（学生）がたくさん来ています。泉ヶ丘地区にはホテルがありません。ビッグアイは高すぎます。競走相手がないので。</p> <p>以上、ない知恵を絞って思いつくままを書き提案します。</p>	<p>ご意見として、承ります。 多岐にわたるご提案やご発想の主旨を含めて、今後、駅前地域の活性化を進める上で、関係者で共有させていただきます。</p>
<p>人口減少、高齢化が進んでいく中で、泉ヶ丘駅前地域も「高齢者にやさしいまち」であるべきだと考えます。 P34・35に記載された「まちの歩きかた・過ごし方イメージ」にあるDさんやFさんは高齢者をイメージした設定だと思われませんが、記載のとおりのお過ごし方ができれば本当に「健幸」な高齢者が増えるとともに、街全体の活性化につながっていくようなイメージが湧きます。 一方で、高齢者は交通弱者であり、買い物弱者であります。このような過ごし方をするための移動手段については更に快適性を高めることができればよいと考えます。 具体的にはICTを活用し、乗客の需要に応じて運行するオンデマンドバスの導入などによる交通システムの整備や、泉ヶ丘駅前周辺におけるペDESTリアンデッキのバリアフリー化など、高齢者がストレスを感じることなく移動できる仕組みを構築することが必要だと考えます。 これらについてはP27の内容に付加されると幸いです。</p>	<p>高齢者の本地域へのアクセスや回遊性について、「施設の増加や再整備に伴う歩行者の増加に対応した歩行者ネットワークの形成を図るため、バリアフリー化と外国人をはじめ、誰もが分かりやすいサインでの案内をすすめるとともに、（中略）」(P27)、「今後の高齢化のさらなる進行、環境への配慮等を見せると、公共交通や自転車の重要性はますます高くなることが予想されるため、公共交通（鉄道・バス）の利便性向上、駐輪場の再配置や自転車通行環境の整備、パーソナルモビリティの利用促進なども含め、中核的タウンセンターとしての本地域へのアクセスしやすさの向上を検討する」(P28)と記載しました。</p>

<p>また、万が一の災害時には単身の高齢者は孤独にならないように、高齢者間が「つながる」ことが大事だと感じます。P24にある「4」多様なアクティビティや新たなビジネス形成の場や機会の創出と仕組みの構築」は高齢者に合わせたものも実行していただきたいと考えています。</p>	<p>高齢者と社会とのつながりについて、「アクティブシニアや子育てを終えた親、NPO、来街者、ベンチャー企業などの多様な人材が、このまちで新たな活動や趣味、ビジネスなどを展開できる場所や働き口の充実が必要である」(P24)と記載しました。また、高齢者と子育て世帯等とのつながりについて、「地域の高齢者や大学生等との世代間交流を通じて、人との付き合い方や思いやりなどが分かる豊かな人間性を育むことができる」(P13)、「多様な世帯(子育て、高齢者、外国人など)と世代が暮らし、地域内の交流が盛んになることで、まち全体で子どもを育てる環境ができる」(P14)と記載しました。</p>
<p>泉ヶ丘駅前のリノベーションが多くの市民にとって、安全、安心、快適な暮らしを提供されることを期待しています。</p> <p>(街づくり全般について)</p> <p>泉ヶ丘駅前地域は、開発後40年を経た今日でも、そのゾーニング、コンセプトは変わることなく継承され、都市機能、文教、健康福祉、自然環境など、ハイグレードな街が維持されている。しかしながら、駅ビル、図書館、小中学校などの公共施設の老朽化が目立つので、分散した施設を集約化される際には、単なる機能統合だけではなく、その質を向上させるような工夫をお願いしたい。たとえば、プール(屋内、全天候、通年利用可能)、増健施設、図書館などを一つの駅前建物にまとめ、利便性を高めてほしい。</p>	<p>本地域の中心部について、「まちの顔となるシンボルコアの構築」、「3つの将来像を象徴するシンボルとなる機能の集積と発信」、「駅前施設のリニューアル・活性化により、南大阪地域全体から集客し、本地域のブランドを発信する商業核としての商業・サービス・文化・交流機能の充実、利便性の向上を図ることが必要である」(P20)と記載しました。</p>
<p>小中学校の建て替えには、今後の少子化も視野に入れ、小中一貫校にするとともに、学力レベル向上を謳う特色ある学校建設を検討されたい。</p>	<p>小中学校については、「幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校・大学などの校種間連携により、幼児教育から義務教育への円滑な接続、小中一貫した教科指導や学習規律に基づく教育、国際的な交流や留学プログラムなど、充実した教育を受けることができる。」(P13)と記載しました。</p>
<p>また、こうした公共施設整備にあたっては、公設民営によって、その利便性確保と採算性確保に留意されたい。行政的な考えによると民設民営というような安直な考えが多い。公的事業はもうからないのは当然だから税金が投入されるわけで、民間に過度の依存を要求するのは筋違いである。特に泉北NTは千里NTとは異なり、都心から距離が遠く、不動産価値も小さいということを念頭におくべきだ。</p>	<p>公共施設整備の検討にあたっては、地域のニーズも尊重しつつ、施設の整備・維持管理にかかる採算性も勘案しながら、総合的に進める必要があると考えます。</p>

<p>住民生活にとって最大のネックになっているのは泉北高速鉄道の運賃が高いことだ。あの赤字だらけのチンチン電車で数十億円の補助金を投入するくらいだったら、真面目に働き高額な税金を納める市民が多く利用する泉北高速へ補助金を投入し、運賃値下げを促進すべきだ。大阪府も、泉北高速株式売却の利益を泉北住民へ還元すべきだ。</p>	<p>ご意見として、承ります。</p> <p>なお、南海・泉北連絡普通旅客運賃等の値下げにつきましては、南海電気鉄道株式会社及び泉北高速鉄道株式会社が平成27年1月29日に報道発表しています。(以下をご参照ください)</p> <p>(参考)</p> <p>「南海・泉北連絡普通旅客運賃」および「泉北線内通学定期旅客運賃」の値下げ報道発表(平成27年1月29日)(抜粋)</p> <p>1. 値下げ等開始日 平成27年3月1日(日)</p> <p>2. 値下げ内容等</p> <p>(1) 南海・泉北連絡普通旅客運賃の値下げ</p> <p>ア、対象乗車券 南海・泉北連絡普通乗車券</p> <p>イ、現行運賃からの値下げ額 大人 80円(乗継割引額を現行の20円から100円に拡大) 小児 40円(乗継割引額を現行の10円から50円に拡大)</p> <p>ウ、その他(略)</p> <p>(2) 南海・泉北連絡回数乗車券の廃止(略)</p> <p>(3) 泉北線内の通学定期旅客運賃の値下げ</p> <p>ア、値下げ内容 泉北線内各駅相互間(全区間)において、通学定期旅客運賃から約25%を値下げ(現行割引率:約60% → 変更後割引率:約70%)</p> <p>イ、差額払いもどし(略)</p> <p>3、値下げ後の運賃(略)</p>
<p>さらに、公的賃貸住宅の老朽化対策も大事だが、過度の投資は控えてほしい。今着工して10年後に建て替えが完了するが、そのときに、いったいどれくらいの人がこの公的賃貸住宅を利用するのだろうか。人口動態、住民ニーズなどを考慮のうえ、住民全体、街づくり全体にとっての優先順位を市長が政治判断してほしい。</p>	<p>公的賃貸住宅の再生については、平成24年3月に策定した「泉北ニュータウン公的賃貸住宅再生計画」において、「公的賃貸住宅については、将来の人口・世帯数の減少や年齢構成バランス、居住ニーズ、公的賃貸住宅の役割、その他の住宅ストックの状況等を総合的に勘案し、戸数規模の縮減を検討していくこととする」と記載しています。</p>
<p>P. 30について</p> <p>「風の道」を創出するのであれば、その風を利用した小型風力発電でさらなる自然エネルギーの有効利用をすべきである。堺の平均風速は低いと言われているが、ビル風の強い地点など特異的に風速が高い地点はあるはず。</p>	<p>ご意見として、承ります。</p> <p>なお、堺市が策定している環境モデル都市行動計画の中で「自然エネルギーを最大限活用したエネルギー・イノベーションによる低炭素型産業構造への転換」をめざしており、再生可能エネルギー、次世代エネルギーなど多種多様なエネルギーの活用を推進しています。</p>

(30ページ)

施設再整備や動線強化、マネジメント等による防災性の強化【短～長期】

災害時の避難安全性を高める施設やオープンスペースの充実を図るとともに、マネジメント体制を構築し、地域全体の防災性の強化を図る。

(中略)

・堺市の福祉避難所に指定されているビッグ・アイや現在災害拠点病院に指定されており、今後立地予定の近畿大学医学部・附属病院などの各施設が連携し、災害発生時の避難弱者の誘導や備蓄の提供、大規模停電時のエネルギー確保などについて、本地域全体での協力・マネジメント体制を構築し、災害時の安全確保計画を策定するなど、災害に強い都市環境づくりをめざすことが必要である。

【修正案】

(現行) 大規模停電時のエネルギーの確保など

(修正後) 水・電気・ガス・水道・熱供給等のライフラインの確保

【理由】

災害時の拠点（しかも当エリアでは大規模な医療機関の建設も予定されている）においては、生命に直結する水を十分に確保することが極めて重要である。

しかしながら、阪神・淡路大震災では、神戸市のほぼ全域を含む約130万戸が断水し、完全復旧まで3か月を要したという事実を踏まえると、単なる備蓄に加え井水・地下水の活用も含めて「水の確保」に関する対策を最優先すべきであると考えらる。

また、電機以外のエネルギー源（ガスや熱供給等）についても、南海トラフ巨大地震の被害想定では、堺泉北臨海地区で高圧ガスタンク等の火災・爆発が発生し、同地区に集積するエネルギー供給事業所において、供給機能を速やかに回復できず、影響が広く府民生活や経済活動に及ぶとの警告も発せられているところである。（大阪府石油コンビナート等防災本部「地震津波被害想定等検討部会報告」(H26.2)、「堺市地域防災計画改定策」(H26.11)）

したがって、当エリアにおいて、災害に強い都市環境づくりを目指すのであれば、電気だけを例に挙げるのではなく、水を最優先に、ガスや熱供給の途絶についても想定していくべきであると考えらる。

万一、こうした記載の変更が認められないのであれば、水・ガス・熱供給の途絶に対する危険性を記載せずに、電気だけを例示している理由を明らかにされたい。

ご指摘の部分について、「堺市の福祉避難所に指定されているビッグ・アイや現在災害拠点病院に指定されており、今後立地予定の近畿大学医学部・附属病院などの施設が連携し、災害発生時の避難弱者の誘導や備蓄の提供、水・電気・ガス・熱供給等のライフラインの確保などについて、本地域全体での協力・マネジメント体制を構築し、災害時の安全確保計画を策定するなど、災害に強い都市環境づくりをめざすことが必要である」(P31)と記載しました。

<p>堺市は、大阪府下の唯一の環境モデル都市として、環境分野において圧倒的に他の自治体をリードしていくべきだと思います。素案のp30に記載されている再生可能エネルギーはもちろんのこと、燃料電池や地域内から発生する植物残渣や汚泥、剪定枝などのバイオマスを活用したエネルギー循環システムを構築することで地産地消によるエネルギー自給率を向上させ、更に環境性を高めることができます。国の補助金を活用し、先導的な事業を進めるべきです。</p>	<p>本地域における環境負荷の低減については、「新たな核施設（大学・病院、公園等）や駅前施設などの整備および機能再編の機会を捉えて、地域全体のエネルギー効率の向上や再生可能エネルギーの活用、地域エネルギーマネジメントシステムの構築等を検討することが考えられる」、「また、施設計画にあたっては、施設の分散・ネットワーク型の配置などにより、現状の緑地をバランスよく確保することや、「風の道」を創出すること等、ヒートアイランド現象をおさえ、低炭素化を図ることが考えられる。」(P31) と記載しました。</p>
<p>(都市のエネルギー利用) 【p30】 都市施設が集積する駅前地区のエネルギー利用については、省エネ・低炭素化をめざす方向を歓迎する。 ただし、今後立地予定の民間病院、学校などにとって、エリア全体のエネルギーマネジメントを規制されることは、進出にとって大きな足枷にならないか危惧される。 各々の建物レベルにおいて、その建物性能、断熱性能、空調熱源などの高効率化は当然検討されるので、既存の地冷システムの採用などは、進出事業者が合理的に選択できるようにすべきと考える。</p>	<p>本地域におけるエネルギー効率の向上については、「新たな核施設（大学・病院、公園等）や駅前施設などの整備および機能再編の機会を捉えて、地域全体のエネルギー効率の向上や再生可能エネルギーの活用、地域エネルギーマネジメントシステムの構築等を検討することが考えられる」、「また、施設計画にあたっては、施設の分散・ネットワーク型の配置（中略）」(P31) と記載しました。</p>
<p>30ページ 本地域では地域冷暖房システムがされるとあります。 地域冷暖房システムは長所と短所がありますので熱源などはそれぞれの事業者が検討し、選ぶことができるということによろしいでしょうか。</p>	

■エネルギーの考え方について（P30の記載について）

2014年6月に国土強靱化基本計画が閣議決定され、国土強靱化に係る国の他の計画の指針として位置づけられました。2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、人命の保護や災害時においても重要な機能を維持させることなどが重要であるとし、国から強くしなやかな「レジリエントなまちづくり」が求められています。また、2014年6月に都市再生特別措置法等の一部改正があり、国は人口減少・高齢化の進行を受けて「健康で快適な生活や持続可能な都市経営の確保が重要な課題」と位置付け、「都市全体の構造を見渡しながら、住宅及び医療、福祉、商業その他の居住に関連する施設の誘導と、それと連携した公共交通に関する施策を講じることにより、市町村によるコンパクトなまちづくりを支援することが必要である」とし、いわゆるコンパクトシティ化が国から推奨されています。コンパクトシティにおいては、都市の持つ機能が単独で働くのではなく、施設・建物間のエネルギーを「ネットワーク化」することで環境性・効率性を高めることができ、更なる魅力向上につながると考えています。このような流れについて、泉が丘駅前地域活性化ビジョンの改訂素案においてはネットワーク化されたレジリエントなまちづくりを実現させるためのエネルギーシステムを構築すべきと考えます。

【より多くの人々が住み、働き、訪れる魅力あるまちづくりの実現のために必要と考えられる要素】

- ・自立分散型のエネルギーシステムの導入（安心・安全） ⇒東日本大震災時においても都市ガスの供給を継続させた強靱な中圧ガス導管を通じ、大規模なコージェネレーションシステムから電気・熱を地域に供給し、有事の際にも人々の生命維持に必要な水・食料を継続的に供給できることが重要と考えます。
- ・再生可能エネルギーや未利用熱・電力等地域資源を活用したエネルギーの多重化（環境性・自給性）
- ・既存の地域冷暖房も含め地域のエネルギーを最適に運用・制御・管理する仕組みの構築（省エネ性）
- ・榎・光明池地区を含めた泉北ニュータウン全体の中で泉が丘地区の明確な位置づけ（効率性） ⇒泉北3地区それぞれについて泉北高速鉄道の停車駅を軸にした特徴あるコンパクトシティとし、各地域が連携して相乗効果を発揮すれば、堺市内のみならず、関西圏のどこにもない魅力を持ったまちとなると考えています。
- ・泉北ニュータウンの中核である泉が丘地区における医療・商業・住宅などの機能向上（快適性）
- ・各地区のコンパクトシティを支える強靱なエネルギーシステムの整備（強靱性）

本地域におけるエネルギー効率の向上については、「新たな核施設（大学・病院、公園等）や駅前施設などの整備および機能再編の機会を捉えて、地域全体のエネルギー効率の向上や再生可能エネルギーの活用、地域エネルギーマネジメントシステムの構築等を検討することが考えられる」、「また、施設計画にあたっては、施設の分散・ネットワーク型の配置（中略）」（P31）と記載しました。

ご提案のまちづくりを実現するためのエネルギーシステムの構築にあたっては、エネルギー供給者も含めた民間事業者の方々にも自ら何ができるかをお考えいただき、目標を共有しながら連携して取り組んでいただくため、積極的な提案や事業推進をお願いしたいと考えています。

5. 「20年後のまちのイメージ」について

ご意見	協議会の考え方
<p>ネクストコア3の記述については「新産業、住宅、宿泊機能等のニーズに対応する」と、大変具体的な表現となっている。一方、ネクストコア1では、表現が抽象的で、何を意味しているのか理解に苦しむ。同エリアは公立小学校の跡地利用であり、歴史的背景を十分に斟酌し、この間汗をかいてこられた地元住民の要望を真摯に受け止めた具体的表現にすべきです。</p>	<p>旧高倉台西小学校跡地（ネクストコア1）の記述について、「駅前と住宅地をつなぐ立地を活かし、教育、交流、防災機能等の将来ニーズに対応する拠点を想定」（P34）と記載しました。</p> <p>なお、跡地活用の検討にあたっては、地域のニーズも尊重しつつ、施設の整備・維持管理にかかる採算性も勘案しながら、総合的に進めることとなります。</p>
<p>旧高倉台西小学校跡地活用について（要望）</p> <p>現在、高倉台西用学校を避難場所としている住民にとって、巷間伝えられる高倉台小学校への場所変更は、大変苦痛を伴います。高倉台地区は、1丁～4丁と広域に及んでおり、高倉台小学校の位置する3丁までは、避難時、特に高齢者、身体不自由者にとっては、距離、道のりのわかりにくさ等、たどりつくまでに大変苦勞を要する地域があります。グラウンド、体育館、校舎の跡地利用については、文化活動、介護、子育て、スポーツ、地域のふれあいの場所等に関連した施設、産業に活用されることを望みますが、人の安全を守る、防災の視点をつけ加えていただきたいと思えます。近くに適当な場所もなく、新設することも不可能なことと思えますので、ご配慮のほどお願い申し上げます。</p>	
<p>高倉小の構想、是非宿泊施設を</p> <p>我が家は団地、家族で住むのが精一杯、子供を連れて里帰りも狭い。最初、三原台にホテル建設の予定だったが無くなり、今は、ビッグ・アイに少し障がい者用としてあるが、本当にいざというときに泊まる所がなくて困っている。高倉小後は、皆で使える学校として利用し、半分はちょっとお洒落なカジュアル的な宿泊施設に是非して欲しいと思えます。気兼ねなく誰でも泊まれる、親類、知人、友達等に泊まれ楽しめる宿を是非作ってほしいと思えます。食事は地元で採れた野菜、米等提供。地域外に宣伝し、ニュータウンの良さを発信していきましょう。</p>	
<p>旧高倉台西小は、公園的な機能とし、地域住民の運動に使えるようグラウンドや体育館を開放してほしい。校舎は特別養護老人ホームにすることも考えられる。</p>	
<p>P. 33・35について</p> <p>ネクストコア1と3の説明について、ネクストコア3の新産業に対応する拠点は近大病院の移転地にも近いネクストコア1にすべきでしょう。導入機能は限定しないと書かれているが、小学校跡地は新産業のインキュベーション施設や公的な研究施設（S-cubeの第2拠点や産技研の第2拠点）、またはオフィ斯拉ボなどの導入を優先的にしてほしい。新産業に関連する研究やコラボレーションのしやすさなど密度の高い施設を整備しようとするれば、ネクストコア3より1の方が適しているはず。</p>	<p>ネクストコア1については、旧高倉台西小学校の跡地活用として交流機能や防災機能を望む意見など、様々なご意見をいただいています。駅前と住宅地をつなぐ立地であることから、教育、交流、防災機能等の将来ニーズに対応していく拠点として想定しています。</p>

教育健幸コアについて、三原公園も計画地とすることで、活性化になる。

三原公園も計画地とし、教育健幸コアとして近大を中心に左右に医療ネットワークが出来る。田園公園より教育施設の多い三原公園のほうが相応しい。田園公園の周辺は住宅が多いが、三原公園は住宅が少なく同じ公園でも近隣の景観に影響しない。現在、田園公園より三原公園は公園として機能していないので計画地にしやすい。田園公園を無くすと近所に公園の代替案が近隣から要望が出てくる。計画地が広がる分、田園公園と近隣住宅の間を広く取ることが出来、緑道としての機能は残る。プールは地下駐車場にし、上を公園として利用する。バラ園などにし、アロマなど健康を目的としたショップを併設しパークライフコアと違う特色を出し集客を狙う。公園を潰す代替案にもなる。地下駐車場だと近隣の建設反対にあわない。今の田園公園だけの計画地では、商店街とジョイパークを通る人の動線しか生まれない。三原公園だと、人の動線も高島屋からパンジョを通り近大に行く動線が出来る。泉ヶ丘の活性化には高島屋を通る動線が不可欠と考えます。自然と高島屋を通り、買い物予定でなかった人に立ち寄ってもらうには高島屋から近代に行ける人の陸橋も必要。

三原公園については、「教育・健幸コア」を中心とした『健幸』づくり拠点の形成」を推進するとし、「田園公園や三原公園などの既存公園は、立地を予定する近畿大学医学部・附属病院と一体的な空間を形成し、公園で過ごすことで健康や生きがいを感じられる場や知識の習得、趣味の幅を広げられるような場を創出することが期待され」(P23)と記載しました。

6. 「具体化に向けた推進体制」について

ご意見	協議会の考え方
<p>住民の声を聞けるしくみが必要。 外国人を受け入れることについて、どう考えていくか（多様性への対応）⇔（エリマネの重要性） 泉ヶ丘だけでなく、深井、梅、光明池、和泉中央のそれぞれのエリアの位置づけを明確にしながら、泉ヶ丘周辺の活性化を考えるべきである。 ビジョンを実現するためにも、エリマネ組織が機能するように、専門委員の先生も今後も関わって欲しい。 行政、民間、住民のトップに合意をとれるような場も必要である。組織の一員には限界があるとともに、個人個人のおもいの可能性もある。ニュータウンの限界と可能性同様、効かせていくしくみ、刺激、状況を作っていくことが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政→補助金、規制緩和 ・民間→市民の一員、要望ではなく自立した経済活動（投資） ・住民→まちに対する誇り、社会性 ・委員→ファシリテート、他社、他エリアの情報提供 <p>4者がうまく結びつくよう、また、それぞれの組織の中で、個人のおもいで動ける人材を見つけ出し、うまく動かして頂きたい。期待しております。</p>	<p>本ビジョンの具体化に向けた推進体制については、「本地域の活性化を推し進めるためには、地域に根ざし、実働するプレーヤー（民間事業者・NPO・大学・市民等）と地域内の資産を保有する関係者（公的主体、民間地権者等）が役割分担をしながら、連携・協働する仕組みが必要不可欠である」（P37）、「本地域内には、商業施設・業務施設や教育施設、公的施設、公園の他、周辺に多様な住宅等が集積し、様々な立場の人が暮らし、営み、訪れる。本地域の活性化を実現するためには、これらの地域住民や事業者など関係者がそれぞれの役割を担うことが必要である」、「本ビジョンの具体化に向けては、目標や将来像、取り組み方針等をこれら関係者と共有するとともに、エリアマネジメント組織の構築や発展、PDCAサイクルの各段階においても、積極的に情報を公開し、これら関係者と連携した活動を展開する仕組みを構築する」（P38）と記載しました。</p>
<p>ステークホルダーについては権利者ではなく、利害関係者という意味で使っていると思うが、定義をしっかりとってもらいたい。また、利害関係者であるステークホルダーがPDCAサイクルのCHECKに入ることが重要だと思う。</p>	
<p>府市等連携協議会は、一部の事業者が勝手に動かないように強気で指導をしてもらいたい。</p>	
<p>場づくりだけでなく、地域住民の声を反映させるための仕組みが必要。</p>	
<p>行政がイニシアティブをとって、まちづくりを進めていくべき。具体的にどのような施策で市・府は進めるつもりか。</p>	

7. その他

ご意見	協議会の考え方
<p>一個人が立ち入る余地がないので、泉ヶ丘地区を泉ヶ丘市に昇格させ、市長と市議会を設置し、その他の機関を現状のまま移管させ、独立・自主の精神で検討・実施されますよう提案します。</p>	<p>ご意見として、承ります。 なお、本地域の活性化のためには、地域の皆様や皆様に身近な区役所も関わる「エリアマネジメント組織」の構築を進め、ビジョン具体化に向けた推進体制を整備していくこととしています。</p>
<p>去る11月26日（水）に上別所で交通量調査（別紙）した結果、午前9時から午後5時までの間、台数4,655台、10分間に約97台の通行量。常に別所地域の狭い道路を大型車が走行、加えて配送車、工事関係車が非常に多い。また、和泉市への抜け道となっているため、一般車の走行も目立つ。さらにダンプを含め、30km規制にもかかわらず、制限速度を守っていない車が大半である。その上に泉ヶ丘再生計画での公共物の解体工事が、当然行われるなか、別所地域をダンプが往来することは避けられない現状（残土処理場があるため）。また、今後も続くであろう解体工事。住民は、日々安全面で不安状態になり、ぜん息になったり、体調を崩す住民まで出る始末。騒音、埃も。市として代替えの通路（バイパス）を早急に住民に提示し、不安解消に努めていただくのは、当然だと考えます。「いつも我慢しろ」では、あまりにも住民無視のやり方だと思います。もっと、住民の立場になって考えていただきたい。計画の順序が逆ではないのか。安心、安全なまちづくりとは、相反すると思いますが。</p>	<p>いただいたご意見は、課題として受け止めます。 工事車両について、狭い道路を通行する場合は、規制速度など法律を遵守するほか、特に注意を払いながら通行するように工事請負業者を指導していくよう、協議会関係者に伝えてまいります。</p>
<p>専門的な表現が多くて、一般人には分かりにくい。用語の説明を入れてほしい。</p>	<p>本ビジョンの中に出てくる専門的な用語について巻末に解説を記載しました。</p>
<p>専門的にはわからないが、1住民として希望を述べたい。全ての住民が安心して、将来に希望がもてる街づくりをお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> *各台センターに行政の窓口を設置する。 <ol style="list-style-type: none"> 1、住民票など一般生活に必要なものが得られるようにする。 2、生活相談に応じるコーナーを設置する。 3、医療とリハビリ、デイサービス。養護施設や障がい者（児）など総合的にサービス体制を確立する。 4、地域の文化・スポーツに向上に貢献できる社会体制の場を保障する。 *安くて便利な公共住宅を拡充する。 *知的・身体・精神どの障がい者も普通に生活できるまちにする。 *地域でのPDCAサイクルの実施できる体制をつくる *今困っている方の要望解決が第一に検討されるべきです。 	<p>ご意見として、承ります。 今後、駅前地域の活性化を進める上で、関係者で共有させていただきます。</p>

ご意見	協議会の考え方
<p>近畿大学医学部付属病院の立地について</p> <p>本ビジョンの改訂素案に、近畿大学医学部付属病院の立地に伴い、田園公園の機能確保が必要とあります。具体的には泉ヶ丘プールの所在地を近大に売却し、プールを移設する必要があるとの事ですが、これ良好な策とは言えません。なぜなら、これまで大阪府下で公園・緑地の機能変更を行う計画が、地元住民らの強い反対運動を受けて計画の撤回や長期の紛争化によるトラブルが何度も起きています。事例として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①豊中市の千里ニュータウン内中央公園に運動広場作る計画→白紙撤回 ②豊中市千里ニュータウンの緑地に北大阪の防災拠点施設建設計画→白紙撤回 ③大阪市天王寺区の真田公園内に雨水貯留施設を造る計画→計画修正のうえ実施。 ④現在進行中の紛争として、枚方市の香里ヶ丘中央公園内の美術館建設計画→約7、500筆の反対署名を受け揺れている。 <p>もし、本ビジョン素案通りに推進されるなら、都市計画公園地を民間に売却するという前代未聞の計画に対する反対運動家は必至でしょう。私見として新病院候補地と至近処理にある「旧高倉台西小学校跡地」の利用策が賢明と思われれます。</p>	<p>ご意見として、承ります。</p> <p>近畿大学医学部及び附属病院の立地計画については、泉北ニュータウンの再生や南大阪地域における高度先進医療や研究機能の充実等に寄与すると考えられることから、大阪府と堺市はその大学等の設置に協力することとし、平成26年7月16日付けで近畿大学、大阪府、堺市の三者において、基本協定書を締結しました。そして、大学等を設置する予定の区域については、府営三原台第1住宅及び田園公園等の一部となっています。</p> <p>なお、現時点では平成35年度を目途に移転をめざすこと以外の詳細は未定であり、具体的な用地や施設計画などは、現在検討中と聞いています。</p> <p>本件につきましては、市民生活への影響を考慮し、公園の利用方針等の案がまとまった際に市民向け説明会を開催し、市民の声をお聴きしながら進めていくと聞いています。</p>